

# 風水害に備えよう

平成30年7月豪雨や令和元年台風第15号など、近年台風などによる大雨・暴風の被害が各地で発生しています。台風や大雨は発生や規模が事前に把握することがある程度可能であり、被害を少しでも抑えるためにも、事前の備えを十分に行っておくことが大切です。

## ○ 避難の考え方

避難は、自らの判断で行動することが原則です。避難勧告等が出されていなくても「自らの命は自らで守る」という考え方のもと、危険がせまる前に早めに避難を開始しましょう（P 21 参照）。

## ○ 日頃の備え

ハザードマップを活用し、土砂災害や洪水、高潮など自宅の災害の危険性を確認しましょう。  
また、高台や垂直避難施設など近くの避難場所を事前に決めておきましょう。

いざ屋外へ避難する際の必要最低限の持ち出し品を用意しておきましょう。  
地震用の持ち出し袋と最低限必要なものは基本的には同じなので、どちらでも活用できます。

※ 風雨に備えカッパを用意しておくことも有効です。  
備蓄品、非常持出品の考え方については⇒P10参照

## ■ 避難カードを活用しましょう。

いざというときに適切な行動がとれるように、自宅に応じた避難行動などを確認しておくことが重要です。避難が必要となる災害や注意すべき情報、避難方法などを記入して、災害に備えましょう。

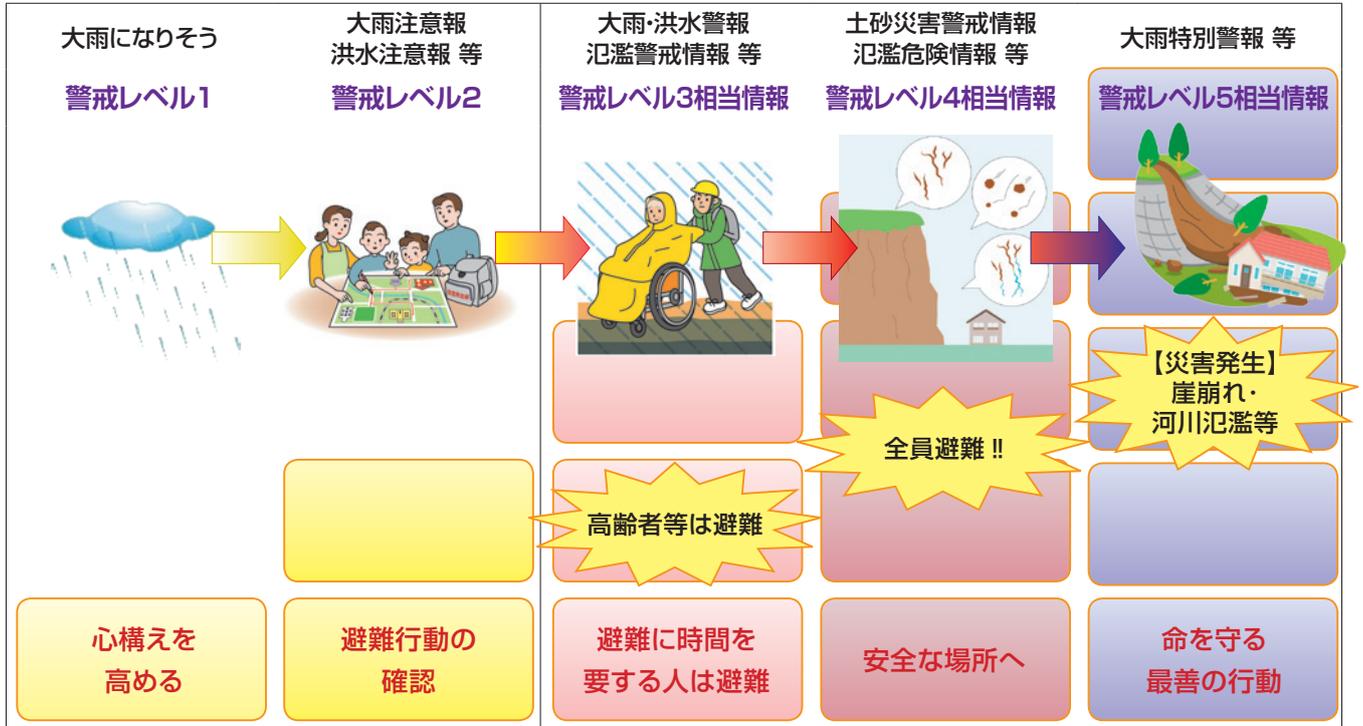
また、家族や近隣の方と話し合い、これらの情報を共有しましょう。

災害の種類	注意する情報	情報の入手方法	避難行動

### 記入例

災害の種類	注意する情報	情報の入手方法	避難行動
崖崩れ	避難情報 土砂災害警戒情報	横浜市防災情報Eメール その他テレビ、ラジオ、 ホームページなど	・〇〇避難場所へ避難 ・外に出るのが危険の場合は、崖 の斜面の反対側の部屋に避難
〇〇川氾濫	〇〇川△△橋水位情報 「避難判断水位」	横浜市、神奈川県ホーム ページ 横浜市防災情報Eメール	・マンションの最上階の共有ス ペースに避難
高潮	高潮警報	横浜市防災情報Eメール	・親戚の家に避難

## 避難情報等を発令する際に参考とする気象情報



※メディア等で提供される「警戒レベル相当情報」とは、気象庁が発表するものであり横浜市が発令する警戒レベルではありません。

## 警戒レベルに応じた皆様がとるべき避難行動等

警戒レベル	避難行動等	避難情報等
警戒レベル5	既に <b>災害が発生</b> している状況です。 <b>命を守るための最善の行動</b> をとりましょう。	災害発生情報 災害が実際に発生していることを把握した場合に、可能な範囲で発令 <b>(横浜市が発令)</b>
警戒レベル4 <b>全員避難</b>	<b>速やかに避難場所へ避難</b> をしましょう。 <b>避難場所までの移動が危険と思われる</b> 場合は、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。	避難勧告 避難指示(緊急) ※地域の状況に応じて緊急的又は重ねて避難を促す場合に発令 <b>(横浜市が発令)</b>
警戒レベル3 <b>高齢者等は避難</b>	<b>避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は避難を開始</b> しましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	避難準備・高齢者等避難開始 <b>(横浜市が発令)</b>
警戒レベル2	避難にそなえ、ハザードマップ等により、自らの <b>避難行動を確認</b> しましょう。	洪水注意報 大雨注意報等 <b>(気象庁が発表)</b>
警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報 <b>(気象庁が発表)</b>

※警戒レベルについて詳しくは、内閣府ホームページをご覧ください。

[http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinankankoku/h30\\_hinankankoku\\_guideline/index.html](http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinankankoku/h30_hinankankoku_guideline/index.html) (内閣府 HP)

## ● 風水害時の避難行動（避難のサイン）を確認しましょう

小石がパラパラ落下するなどの崖崩れの前兆現象や、下水道などからの浸水、河川の氾濫情報、警戒レベル4（避難勧告、避難指示（緊急））、警戒レベル3（避難準備・高齢者等避難開始）といった【避難のサイン】を参考に、「自らの判断」で「自らの命は自ら守る」という考えのもと、危険がせまる前に早めに避難を開始しましょう。

### 避難のサイン（情報は早めに!）

#### 下水道などからの浸水

#### 河川氾濫の危険

- テレビ・ラジオ・横浜市HPなどで気象情報に注意しましょう。
- 横浜市HPなどで河川の状況を確認しましょう。
- 外の様子に注意しましょう。
- ※ 側溝やマンホールから大量に水が溢れる。

#### 土砂災害の危険

#### 小石がパラパラ落下

#### 斜面に湧水が発生

#### 斜面に亀裂が発生など

崖崩れの前兆現象

警戒レベル4（避難勧告、避難指示（緊急））、警戒レベル3（避難準備・高齢者等避難開始）など

が、でたら…

### 避難行動（早めに行動!）

- **安全な場所へ避難**（指定緊急避難場所等の避難場所、近くの高台、土砂災害警戒区域及び浸水想定区域外の親戚の家など）

水平避難



- **堅牢な建物の2階以上または、近隣の高い建物へ避難**



垂直避難

- **建物内の安全な場所で退避**（夜間や危険が差し迫っている場合など、屋外へ避難するとかえって危険な場合）

（斜面の反対側）  
屋内退避



## ■ 危険性に応じた避難行動をとりましょう

- ① ハザードマップを活用し、ご自宅や周辺の災害の危険性（土砂災害、洪水、高潮の危険）を確認します。
- ② 災害の危険性や浸水深等を考慮し、指定緊急避難場所や、危険な区域外の親戚の家などの避難場所へ避難するか、自宅での垂直避難で大丈夫かを確認します。
- ③ 近くの避難場所（高台や垂直避難施設）を事前に確認しておきます。
- ④ 警戒レベル4（避難勧告、避難指示（緊急））、警戒レベル3（避難準備・高齢者等避難開始）の発令や前兆現象等があった場合には速やかに避難を開始します。
- ⑤ 停電に備え懐中電灯やラジオを用意しましょう。

### ● 指定避難所、指定緊急避難場所について

- 指定緊急避難場所は、切迫した災害の危険から一時的に逃れるための場所で、「洪水」、「土砂災害」、「高潮」、「地震」等の災害の種別ごとに、地域防災拠点である市立学校等を指定しています。ただし、災害の規模や被害状況等により、地区センター等の公共施設や自治会館などを避難場所として開設する場合があります。**指定緊急避難場所の開設は、災害時、行政が避難勧告等を発令する場合に、災害規模や状況に応じて決定し、各区ホームページ等でお知らせするほか、テレビのテロップにおいても流れます。**
- 指定避難所は、災害によって自宅に住めなくなった場合などに避難生活を送る場所です。横浜市では地域防災拠点である市立学校等を指定避難所として指定しています（P17 参照）。

「指定緊急避難場所」や「指定避難所（地域防災拠点）」の位置や避難経路を把握しておきましょう。

横浜市 指定緊急避難場所 指定避難所

検索

## 台風への備え

台風は事前に備えができる災害です。接近してからではなく、普段から対策に取り組みましょう。テレビのニュースなどで台風の進路を確認しましょう。

### ■ 家の外の備え

- ・側溝や排水溝の掃除をし水はけをよくする。
- ・屋根や塀、壁の点検、補強する。
- ・飛ばされそうな物の固定や撤去をする。
- ・土のうや止水板を持っている場合は、直ぐに設置できるように準備する。

※台風とは…熱帯の海の上で生まれた低気圧です。その熱帯低気圧のうち、最大風速(10分間平均)がおよそ17m/s以上のものを「台風」と呼びます。



## 土砂災害への備え

避難は各人の判断で行動することが原則です。避難勧告が出されなくとも「自らの命は自らで守る」という考えのもと、危険がせまる前に早めに避難を開始してください。

横浜市では、崖崩れが発生した場合に人家に著しい被害を及ぼす可能性がある崖地をあらかじめ抽出し、その周辺地域に対して、「土砂災害警戒情報」の発表とともに「避難勧告」(以下、「即時避難勧告」という。)を発令します。

### 避難のサイン

- ・小石がパラパラ落下
- ・斜面に湧水が発生
- ・斜面に亀裂が発生 など



- 安全な場所への避難(指定緊急避難場所等の避難場所、近くの高台、土砂災害警戒区域外の知人の家など)
- 堅牢な建物の2階以上または、近隣の高い建物へ避難
- 建物内の安全な場所で避難(夜間や危険が差し迫っている場合など、屋外へ避難するとかえって危険な場合)



### 土砂災害ハザードマップ

<https://www.city.yokohama.lg.jp/business/bunyabetsu/kenchiku/bosai/gake/hmap.html>

### 即時避難勧告について

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/bousai-kyukyu-bohan/bousai-saigai/wagaya/fusuigai/taifu/taifu-sonae.html>

## 浸水害への備え

横浜の市域は市街化の進展により、大部分がアスファルト道路等に覆われ、雨水が地中に浸透しにくくなっています。このため、集中豪雨等により河川や下水の排水処理能力を超えた雨水は低い場所に集まり、短時間のうちに浸水の危険が高まりますので、雨の降り方には十分注意し、早めの判断・行動を心がけましょう。

### ● 地下施設の浸水

- ・地下街や半地下住宅、地下駐車場などは急に水が流れ込んでくる可能性があります。避難できずに閉じ込められないよう、早めに避難しましょう。

### ● アンダーパス等の冠水

- ・アンダーパスや低地では冠水し車が水没する等の危険があります。大雨の際の通行は避けるようにしましょう。

### ● 洪水ハザードマップ内水ハザードマップを活用して、避難する時の行動や日頃の備えを確認しましょう

#### 洪水ハザードマップ

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/bousai-kyukyu-bohan/bousai-saigai/map/flood-hmap.html>

#### 内水ハザードマップ

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kasen-gesuido/gesuido/bousai/naisuihm.html>

## 地域での取り組み

まち歩きなどを通じて、地域の危険箇所を事前に確認しておきましょう。

そして、避難行動や防災情報等の周知、垂直避難施設への協力の確保に努めるとともに、お年寄りや子ども、障害のある人などへの地域での助け合いについて心がけましょう。



# 雷に備えよう

雷鳴が聞こえるなど雷雲が近づいてきているような場合には、落雷が差し迫っています。速やかに安全な場所へ避難しましょう。

## 雷に遭遇した場合

雷は、雷雲の位置次第で、海面、平野、山岳などところを選ばずに落ちます。近くに高いものがあると、これを通して落ちる傾向があります。グランドやゴルフ場、屋外プール、堤防や砂浜、海上などの開けた場所や、山頂や尾根などの高いところなどでは、人に落雷しやすくなるので、できるだけ早く安全な空間に避難して下さい。

鉄筋コンクリートの建築物、自動車（オープンカーは不可）、バス、列車の内部は比較的安全な空間です。

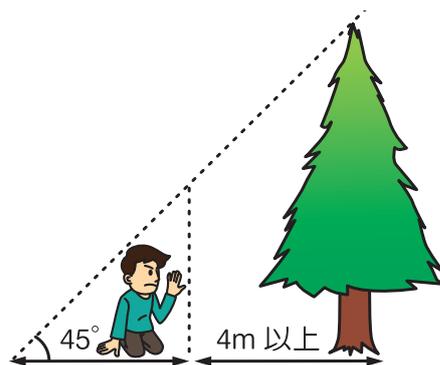
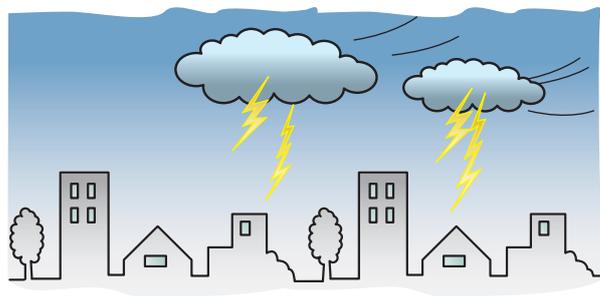
また、木造建築の内部も基本的に安全ですが、全ての電気器具、天井・壁から1m以上離れば更に安全です。（出典：気象庁ホームページ「雷から身を守るには」）

## 安全な空間に避難できない場合

近くに安全な空間が無い場合は、電柱、煙突、鉄塔、建築物などの高い物体のてっぺんを45度以上の角度で見上げる範囲で、その物体から4m以上離れたところ（保護範囲）に退避します。高い木の近くは危険ですから、最低でも木の全ての幹、枝、葉から2m以上は離れてください。姿勢を低くして、持ち物は体より高く突き出さないようにします。雷の活動が止み、20分以上経過してから安全な空間へ移動します。

（雷から身を守るには ― 安全対策 Q & A ―：日本大気電気学会 から引用）

（出典：気象庁ホームページ「雷から身を守るには」）



# 竜巻に備えよう

竜巻は、積雲や積乱雲に伴って発生し、大気中の渦巻きが地上に達しているものです。竜巻が発生した場合、住家の屋根がはぎとられる、大木が倒れるなど、大きな被害をもたらす可能性があります。いつ、どこで発生するか予測が困難な気象現象です。

真っ黒い雲が近づくとなど天気の異変を感じた時、竜巻注意情報などの情報を得た時は、次のことを参考にして、自分自身の身を守る行動をとってください。

## 竜巻の予兆

- 真っ黒い雲が近づき、周辺が急に暗くなる。
- 雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。
- ヒヤッとした冷たい風が吹き出す。
- 大粒の雨や「ひょう」が降り出す。



## ○ 避難行動

### ■ 屋外にいるときは…

- 近くの頑丈な建物に避難する。
- そのような建物がなければ、飛散物から身を守れるような物陰に入って身を小さくして頭を守る。
- 倒壊する可能性があるため、電柱、太い樹木に近づかない。
- 物置、車庫、プレハブ（仮設建物）に避難しない。

### ■ 屋内にいるときは…

- シャッター、窓、カーテンを閉め、窓から離れる。
- 2階建て以上の住宅では、1階の窓のない部屋に移動する。
- できるだけ家の中心部に近い窓のない部屋に移動する。
- 丈夫な机やテーブルの下に入るなど、身を小さくして頭を守る。



### ■ その他

- 「竜巻発生確度ナウキャスト」を確認する。
- テレビ・ラジオ等による情報を収集、確認する。

# 大雪に備えよう

## ○ 大雪が予想される場合には…

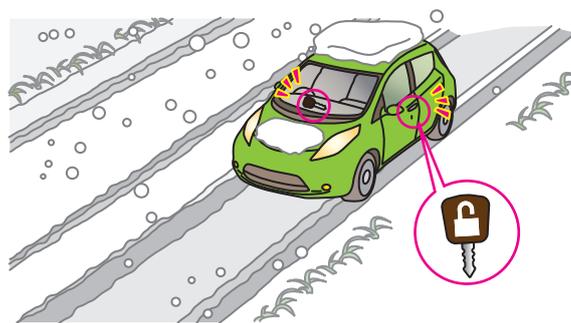
### ■ 在宅時の安全な過ごし方

- 大雪が予想される場合には、不要不急な外出を避けましょう。
- 事前の備えとしてご自宅に懐中電灯、携帯ラジオ、食糧、飲料水等を準備しておきましょう。
- 一酸化炭素中毒防止のため、FF式暖房機の給排気口付近が雪で塞がれないように注意しましょう。
- ご近所の高齢者等の配慮が必要な人には積極的に声掛けしましょう。

### ■ 車両の運転

大雪が予想される場合には、できる限り車両の運転は避けましょう。また、やむを得ず車両を運転する場合は、次のことに注意しましょう。

- 事前の気象情報、道路情報等の確認をしましょう。
- 車両の点検整備を確実に実施しましょう。
- 防寒着、長靴、手袋、カイロ、スコップ、牽引ロープ、飲料水、非常食等を準備しましょう。
- 道路状況に応じた無理のない運転、スタッドレスタイヤやタイヤチェーンの早期装着をしましょう。
- 立ち往生してやむを得ず車を離れる場合にはドアをロックせず、キーを車内の分かりやすい場所に残しましょう。



## ○ 除雪を行うときには…

作業時の家族・近所への声かけ、準備運動の実施、複数人での作業など、除雪作業中の安全対策を図りましょう。また、高齢者が無理をすることなく除雪できるよう地域で助け合いましょう。